

多摩市長 渡辺 幸子 様

この度、別紙添付の通り、私たち川崎市麻生区はるひ野・黒川地区および近隣住民は多摩市と麻生区との境界線上に位置する 多摩市諏訪6丁目「エコプラザ多摩」内に3月末建設着工予定の廃プラスチック中間処理施設建設を見直しして頂きたく、陳情を提出することになりました。

この施設の建設にあたり、はるひ野住民の間に不安が広がっております。

事の発端は インターネットのブログに 廃プラスチックを圧縮することで化学物質が発生するという内容が掲示されたからです。

渡辺市長もご存知かと思いますが 私たちの住むはるひ野は「よこやまの道」を挟んで多摩市と隣接する新興住宅地で、今まさに 建設・転入ラッシュです。

昨年9月 半径500mの住民を対象に 説明会をしていただきましたが、その時点で 対象となった住民は わずかでした。

市から配布されたチラシにはプラスチックを圧縮することで化学物質が発生することは全く記載なく 既存の施設に新しい機械が導入されるという程度の内容でした。

説明会の出席者もわずか2名。という状況です。

説明を受ける対象となる住民は続々と増えている最中なのです。

はるひ野住民の多くは 緑豊かな環境を求めてこの地を選んでおります。

空が広く 虫や鳥の音が聞こえ 公園では子供たちが元気に遊ぶ光景がみられるのどかな街です。

平成19年4月には幼稚園 翌年4月には はるひ野小中一貫校が開校

保育園の建設計画が進められるなど、子供たちがのびのびと遊び学べる環境が今現在ここにはあるのです。

私たちの周りには 空気のきれいな場所で子育てをしたいと アトピー性皮膚炎・喘息に苦しむ子供たちも沢山転居してまいりました。

はるひ野には町並み協定があります。

周辺の豊かな自然環境と一体となった住宅地としてふさわしい良好な住環境を創出・維持し、現在ここに住む私たちのみならず、

子供や孫の代まで受け継がれるような町にするべくこの協定がつけられました。

言わば、環境を買って来た住民の集まりなのです。

この情報が出回りはじめ、2月3日の町内会会議で話し合いの場が設けられました。

町内会の会議では、情報があまりにも曖昧で確認する必要があるとの見解で、

2月10日に新たに場所を設け、この件に関心ある住民を呼びかけ町内会に加入している111名が集まり 話し合いの末、自治会として部会を新たに設け、

「エコブラザ対策部会」が発足いたしました。

今までの活動内容としましては

多摩市議会宛の陳情と同様の内容で2月19日に川崎市議会へ全会派、紹介議員になっていただき請願書を提出いたしました。

同時に 川崎市長宛 川崎市からも建設着工の延期を求めていただけるよう要望書を提出いたしました。

特に子供を持つ母親は健康への安全性が確認されていない施設に不安を感じています。

9月に説明会を行い 私たち近隣住民の同意を得て 補正予算を可決となっているかもしれませんが このような状態で 同意を得たことになるのでしょうか？

2月25日にはるひ野住民対象に 説明会を開いていただけるとの事ですが

ここで住民が説明に納得いかなかった場合 工事着工を延期していただけるのでしょうか？
補正予算が可決した後だからと無視されてしまうのでしょうか？

多摩市は渡辺市長になり、自治基本条例ができました。

また、全国に先駆けパブリックコメント・アンケートの実施・市長へのハガキ・Eメールなど様々な取り組みをされている素晴らしい市であることが分かります。

はるひ野住民の中にも、多摩市にあるスマレ幼稚園・諏訪幼稚園・錦秋幼稚園に通わせている家庭が多くあります。

川崎市民とは言えども立地は多摩市と稲城市の境にあり 買い物などは多摩センターに行く方が大勢います。

自治基本条例によると、

「市民」には、市内に住んでいる人だけでなく、仕事先や学校が市内にある人、市内で事業を営んでいる法人、市内で活動する非営利活動団体（NPO団体・自治会等）や任意の団体が含まれます。

有権者ですらありませんが、多摩市民もいるのです。

昨今、施設は異なれども 多種の有害な化学物質は杉並病・化学物質過敏症との関連が指摘されております。

この施設が住民の理解を得ないまま 3月末に着工されるのは納得がいきません。

何より 子ども達の健康と安全を守る義務が私たちにはあるのです。

10年先 20年先の子ども達の未来を守るべく 私たちは立ち上がりました。

しかし、これは私達が日々出しているゴミの問題です。

自分達の事だけを考えるのではなく、いかに、安全にゴミを減らしていくか、資源を大切に使うか、街のこと・国のこと・地球のことを考えなければならない時期にきています。

私達は、この問題に直面することによって、改めて環境問題を認識しました。

でも、まだわからないことがたくさんあります。

これから、この問題を考えていくには、時間が必要なのです。

十分な情報公開のもと、専門家を交えて、行政側と住民が対話し、解決していく必要があると思います。

私達の生活には、川崎市、多摩市といった区別はないのです。

空気も景色もつながっているのです。

23 区内では 廃プラ圧縮施設を造らないことに決まりました。

また、杉並中継所も閉鎖されることが決まっています。

では、有効活用できる貴重な資源を燃やせばいいのか？

燃やすことによってダイオキシンが発生することはわかっております。

地球温暖化が叫ばれている中、この施設の必要性は十分に理解しておりますし、

むしろ資源ごみは積極的に リサイクルするべきだと思います。

しかし、人体に影響があるかもしれない施設の増設には賛成することができないのです。

行政は、「確かに化学物質がでていますが、国の基準値以内だから 安全です。

他市でも稼働している施設なので問題はありません。」と口をそろえて言います。

「法的には何ら問題ない施設ですよ...」

しかし、現実には発生する化学物質が国の基準値以内だといっても アスベストにしても、杉並中継所・寝屋川の焼却施設など稼働している施設はすべて国の基準値以内でした。

ところが現に健康被害がでているのです。相模原の宮下にも同様の施設があります。

付近に住む友人は 稼働日になると目が霞む・子供が咳き込む等の症状がでています。

宮下付近の自治会では、独自で健康調査をしているのです。

もっと、市民と同じ目線で 現状を、生の声を、聞き取ってください。

現在稼働している所に市長自ら現地を訪れ 本当に近隣住民は健康被害なく

暮らしているのか見てみてください。専門家の話を聞いてみてください。

ご多忙な事は重々分かっておりますが報告を元に判断すべき施設ではないのです。

2月24日には多摩市民向けに15時からエコプラザで説明会があります。

多摩市民がこの件に関し、どれだけ関心を持ち 不安を抱いているのか市長自らご出席頂き確認してみてください。

この問題の大きさを直接感じていただけたらと思います。お忙しいことと思いますが
何卒よろしくお願い申し上げます。

合わせて、この件に関しましては 私たちの切実な気持ちを理解頂き 是非
直接お会いしてお話させていただきたくお願い申し上げます。

はるひ野町内会 エコプラザ対策部会

山田 康貴